

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル **No.116**

SABS Journal No. 116

発行日：2020年3月24日

URL : <http://sabsnpo.org>

このジャーナルはバイオテクノロジー標準化支援協会（SABS）会員だけではなく、広い意味のバイオテクノロジーにご関係のある方々にも配信しています。

ジャーナルは毎月末（第4土曜）に開かれている定例会の前に発信することになっていて今回の116号もこの時期に皆様に配信する予定だったのですが、3月28日（土）に予定していた3月の第101回定例会は中止ということになってしまいました。もちろん今話題の新型コロナウイルスの蔓延(Pandemic)が理由です。いつも使う渋谷の首都大学東京（都立大）同窓会八雲クラブは渋谷という元気だけ無自覚な若者が集まる盛り場のど真ん中なので今のところ‘クラスター’は報道されていないもののいつどうなるか分からないこともあり、今月は中止ということになりました。来月は終息に向かう事を祈りつつ第101回定例会は4月25日（土）を予定し会場も予約してあります。すると、昨夜（3/25）都知事が、東京では遂に41名が新たに感染したのでいわゆる **Outbreak** が起こりかけているから‘不要不急’の集会は中止せよとのお達しを出しました。我々の会は‘不要’では決してありませんが‘不急’には違いないので中止は残念ながら正しかったことになりました。

インターネットで見ますと国内の学会はほとんど延期や中止になっているようです。
(<https://www.businessinsider.jp/post-208726>) 植物生理学会年会は大阪で開催予定でしたが中止となり、講演要旨集の出版で年会は成立したとしています。物理学会も「現地開催は中止」とし講演者は「講演したことにする」とか似たような対応です。実はこれまで少なかった欧米で我が国を遥かに超える感染者や死者が始まる世界的 **Pandemic** は間違いないようです。さらにこのサイトにはオンライン形式で開く学会も増えつつあることを伝えています。これを推進している国立情報学研究所所長は「コロナが流行しているからできないのではなく、コロナが流行しているからこそできることを考えたい」と言っています。一方「突発的な議論や顔を合わせてのコミュニケーションは、実は情報量が多い。ちょっとした雑談の中で生まれる『そういえば気になっていたのだけど』というような議論は、現状のビデオ会議のようなコミュニケーションでは難しいように感じます。もちろん発表の内容や質疑も大切なんです。私は、発表の合間や雑談の中で聞こえる『雑音』や、顔を合わせた議論の合間にある『沈黙』もまた、新しい芽を見つけるために非常に重要だと思うのです」（慶大理論物理学 松浦教授）という声もあり筆者も賛成です。

オンラインと言えば当協会（SABS）を始められた故奥山典生東京都立大学名誉教授はこの定例会に **Skype** を導入しようと努力されていました。結構うまく行って当時フランス

滞在中の小林英三郎さんがスクリーンに写っていたのを思い出します。とはいえやはり最近の定例会定番の懇親会などは Skype では無理ですが。

前号では夏の酷暑と東京オリンピックの話とその頃問題になっていたコロナウイルス騒ぎと酷暑と豪雨と強風という「人災」と言わざるを得ない災害群が東京オリンピックを襲う可能性もありなど書きましたが、当時全く心配しなかったヨーロッパが大変なことになり、遂に国際オリンピック委員会が延期を宣言しました。この病気 Corona Virus Induced Disease(COVID-19)に早く特効薬が出て終息に向かう事を切に願います。特効薬といえば前回も紹介した Avigan が効くと中国から発表されました。この富山大学の白木公康教授が富士フイルム富山化学と開発したアビガンはファビピラビル (Favipiravir) とも呼ばれるこの物質は、富士フイルムと契約したライセンスで中国企業が製造したもののようです。ただしライセンス契約は既に終了したのに富士フイルム側は一時金やロイヤルティを受け取れないままだとも言われます。<https://nkbp.jp/2x3Xkf9> ともあれ本当にこの薬が効くことを願ってやみません。

前回の話題提供は本会でネット管理など永年にわたって担当して来られた田中雅樹さんでした。田中さんは現在ガン検診などに使われる半導体装置の開発に忙しい毎日を送って居られる文字通り若い現役研究者の一人です。ガン検知は言うまでもなく非常に大切に注目されている分野です。大変お忙しくて前から話をお願いしていたのですが中々お時間を頂けなかったのですが、今回ようやく実現しました。お話はいわゆるバイオセンサ全般のこれまでの歩みと半導体技術の発達と普及で遂には DNA シーケンサへの応用まで幅広いお話でした。時間の都合でマイクロ RNA 検出などガン検診のお話など十分聞けなかったのもまたぜひいつか続きをお願いすることになりました。

前述のようにバイオテクノロジー標準化支援協会 (SABS) 第 102 回 定例会は 3 月 28 日の予定でしたが、中止となります。

一応次回は 4 月 25 日 (土) を予定していますが、改めて次号ジャーナルでお知らせいたします。それまでにこの COVID-19 Pandemic が終息とまでは行かなくとも危険が減ってこの会を開ける情勢になっていることを願い皆様のご健勝をお祈りし再会できることを切望してやみません。

このジャーナルは現在檜山が毎回拙文を執筆していますが、ぜひいろいろな方々に話題をご投稿頂ければと思って居ます。内容や字数は全く自由です。また定例会での話題提供も大歓迎です。時間は 2 時間程度ですが短くても長くても (長い場合は 2 回以上に分けます) また内容もちろん自由です。会員である必要も御座いません。ぜひ皆さまのご参加をお待ちして居ります。また忌憚ないコメントも頂けると幸いです(thiyama@athena.ocn.ne.jp)。

当会ホームページ<<http://www.sabsnpo.org>>には本メールジャーナルのバックナンバーが収録してあります。また刊行雑誌のタグをクリックして頂くと「医学と生物学」をご覧になれます。

- ① 配信停止・中止希望は下記アドレスにメールにてその旨お知らせください。
- ② 配信先アドレス等の登録情報変更は メールにてその旨お知らせください。
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録をご希望の方はメール下さい。
- ④ ウェブサイトに関するご意見もメールにて頂ければ幸いです。

特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

E-mail:sabs.elibraly.i@gmail.com

URL:<http://sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川哲朗、川崎博史、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹